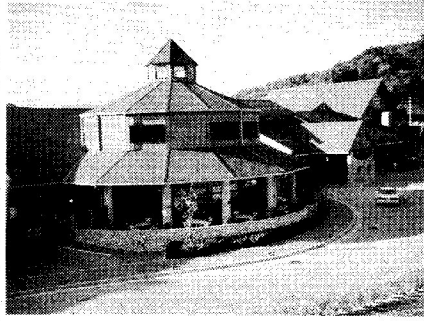


## 自然賛歌

## 後畑の蛍

妹尾 治人

平成十年五月十六日、廿日市市の奥座敷後畑にアルカディア・ビレッジがオープンした。新しく発掘された温泉と自然を取り入れたサクラの里・ハーブ園・ホタル鑑賞水路等が人気を呼び、連日大盛況で今までとても静かだった後畑が急に賑やかになった。



アルカディア・ビレッジ

オープンして間もなく、今年は少し早くホタルが飛び始めたとの情報があり、六月八日ホタルの観察に後畑を訪ねた。アルカディアビレッジの北側に作られたホタル鑑賞水路には、まだ日の暮れないうちから数十人の人が集まり、まだかまだかと待っている日が落ちてもまだ出てこない。待つこと久し八時十分になってやっと姿を現わした。

ホタルは鑑賞水路の草叢から出て来るものと思っていたら、予想に反し山裾の木の枝から出現した。この夜出てきたホタルは数匹で、見物人の方がはるかに多かった。ホタルは日によって出現数が異なるようだ。

鑑賞水路に姿を見せたホタルは、人手によってホタルの幼虫と餌のカワニナが持ち込まれ羽化したものだと思われるが、アルカディア・ビレッジの下を流れる後畑川に降りて見ると、自然のホタルが沢山飛び交っていた。自然のホタルと新入りのホタルが仲良く交流し、来年はもっと沢山のホタルが見られることを期待したい。

後畑川のほか、廿日市市でホタルの見られる川は、長野川・川末川・御手洗川の上流（明石）だけとなった。可愛川・佐方川では数年前までは確認されており、今でも一匹位は見られるのではないかと、夜数回歩いて見たがホタルに出会うことは出来なかった。もし、見られた方がおられたら教えていただきたい。

ホタルの一生は、卵から約一ヶ月で孵化し幼虫となり水の中に入り約十ヶ月カワニナ等を食べて成長し、翌春砂場に上がって蛹となり初夏の頃羽化する。成虫の生命は短く、僅か十日位の間に交尾し産卵して終わる。

ホタルの語源は、火垂れ（ホタル）、星垂れ（ホシタレ）がホタルになったもので、鞘翅目

ホタル科の昆虫は全て光を出すものと思っていたら、光るのはゲンジボタル、ハイケボタル、ヒメボタルだけでその他に光らないホタルが数種類いるらしい。その生態も異なり、ヒメボタルはカタツムリ等の陸貝を餌にして山で暮らす。



ホタル鑑賞水路案内標識

ホタルは、昔は沢山いたもので、ホタルを捕らえて籠に入れ、戯れに蛍の光で読書した体験をお持ちの方も多いと思うが、蛍の産す詩情も今では遙かかすんでいるようだ。

水の汚染、河川工事等により、ホタルは全国的に減少の傾向にあるが、廿日市市では嬉しいことにまだ僅かでも見る事が出来る。水の汚れを防止しホタルの棲める環境をいつまでも守ってやりたいものである。

ホタル来い後畑はアルカディア

(自然観察指導員)